

XIV 植物成長調整剤

1. 水稻

| 薬剤名 | 使用目的 | 使用方法 | 使用時期 | 本剤の使用回数 | 備考 |
|------------|----------------|---------------------------------|---------------|--|------|
| カルパー粉粒剤 16 | 発芽率の向上、苗立歩合の安定 | 湿粉衣（地上は種用、空中散播及び無人ヘリコプターによる散播用） | は種前浸種後 | 1回（過酸化カルシウム 1回） | 直播水稻 |
| スマレクト粒剤 | 節間短縮による倒伏軽減 | 湛水散布 | 出穂 7～20 日前 | 1回（ハクローブトリアル 1回） | |
| ビビフルフロアブル | 節間短縮による倒伏軽減 | 茎葉散布 無人ヘリコプターによる散布 | 出穂 10～2 日前 | 1回（プロヘキサジオンカルシウム塩 1回） | |
| ロミカ粒剤 | 節間短縮による倒伏軽減 | 湛水散布 | 出穂 25～10 日前まで | 1回（ウエコゾール P2 回以内（但し、種子浸漬は 1回以内、本田では 1回以内）） | |

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 水田施用農薬は、止水期間を1週間程度とし、水田外への農薬流出防止を図る。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

<水田施用農薬は、止水期間を1週間程度とし、水田外への農薬流出防止を図る>

| 使用目的 | 使用薬剤 | 使用方法 | 使用上の留意点 |
|----------------|------------------------------------|---|--|
| 水稲の倒伏軽減 | スマレクト粒剤 〔パクロブトラゾール 0.6%〕 | 1. 出穂前20～10日（幼穂長2mm～葉耳間長約+3cm）に10a当り3kg散布する。 | 1. 本剤の散布により節間が短縮され、倒伏が軽減される。 2. 本剤は倒伏の危険が明らかな時のみ使用するようにし、散布を前提とした多肥栽培を行わないこと。 3. スマレクト、ロミカは3～5cmの湛水状態で均一散布する。散布後は少なくとも7日間は落水、かけ流しはしない。 4. ビビフルは散布後数時間以内に降雨に遭遇しないように天候を見はからって散布する。 5. ビビフルは無人ヘリコプターで散布できる。 6. 重複散布や多量散布は薬害を生じたり、後作物に影響する場合があるので、使用量を厳守する。 7. 本剤を使用した水田の土壌を野菜類の育苗用床土に使用しない（本剤使用后1年間以上）。 8. 周辺作物への飛散に注意する。 |
| | ロミカ粒剤 〔ウニコザールP 0.04%〕 | | |
| | ビビフルフロアブル 〔プロヘキサジメカルシウム 塩1%〕 | 1. 出穂前10～2日（葉耳間長約+3cm～出穂始め）に10a当り75～100mlを水100～150lに溶かして散布する。 2. 無人ヘリコプターによる散布の場合は、10a当り100mlを800mlに希釈して散布する。 | |
| 湛水土壌中直播の出芽苗立安定 | カルパー粉粒剤16 〔過酸化カルシウム 16%〕 | 1. 乾燥種籾重量の1～2倍重量（浸種籾の0.8～1.6倍重量）を粉衣する。 2. 粉衣は種籾浸種後専用の回転式コーティングマシンを用いて行い、乾燥後播種する。 3. 播種は地上播種機又は空中散播（有人・無人ヘリ）による。 | 1. 本剤の粉衣により、発芽中の土中種子に酸素を供給し、出芽率向上・苗立安定に効果がある。 2. 粉衣機（コーティングマシン）は本剤と水を交互に少量ずつ加える所定の方法に従い、完成した粉衣籾が本剤で十分固着し、やや丸味のある外観のペレットにする。 3. 粉衣後の籾は30～60分ムシロに広げ、陰干しする。 4. 粉衣当日に播種しないときは、通気の良い場所に保管し、早目に播種する。 5. 水分を吸収すると固化して使えなくなるので使い残しのないようにし、保管中の湿気をさける。 |